

## 17 退院後の脊髄損傷者の医療機関利用状況

看護部 富岡佳代 田村玉美

### 【はじめに】

脊髄損傷者の健康管理では、排泄や褥瘡など医療との関わりが大きいですが、退院後の医療機関利用状況に関する報告は少ない。そこで今回、アンケート調査を実施したのでその結果を報告する。

### 【研究の目的】

A 病院を退院した脊髄損傷者の医療機関受診状況について通院頻度、通院診療科、受診内容を明らかにする。

### 【調査方法】

郵送による無記名自記式アンケート調査

対象者：A 病院を退院した脊髄損傷者 730 名のうち回答を得た 266 名(回収率 36.4%)

### 【結果】

- ① 定期的な通院の有無は有りが 223 名(83.9%)、無し 23 名(9%)、無回答 20 名(8%)であった。(図 1)
- ② 通院頻度を損傷別・年代別・経過年数別に見ると、どの種別でも 1 ヶ月以内にほぼ 80%が通院していた。(図 2)
- ③ 受診している診療科は泌尿器科が最も多く (159 名)、整形外科 (105 名)、内科 (71 名)の順であった。(図 3)
- ④ 通院目的は健康維持 (166 名)、治療 (83 名)、訓練 (42 名)の順であった。(図 4)
- ⑤ 通院で治療している病気は、尿路感染、生活習慣病、褥瘡の順であった。(図 5)

### 【考察】

損傷別・年代別・受傷からの経過年数にかかわらず、1 ヶ月以内の通院が 80%あった。そのため通院に必要な交通手段や介助者確保のための情報提供、また病院も車いす利用者に対応できるようにするなど受診しやすい環境作りが必要である。

尿路感染が最も多いということは日々の排尿管理が影響する。退院時に指導は行っているが在宅では管理の方法が病院とは異なるため排尿管理についての情報の発信や、相談できるような体制作りがのぞまれる。また、各々の状態を把握しているかかりつけ医の確保によって、安心して生活できるようにすることも重要である。

通院治療の内訳を見ると 27.2%が生活習慣病であり、予防のための指導に目を向けるべきである。

### 【結論】

- ① 脊髄損傷者は約 80%が月に 1 回以上通院している。
- ② 泌尿器科の通院が多い。
- ③ 治療中の疾患では 27.2%が生活習慣病であった。

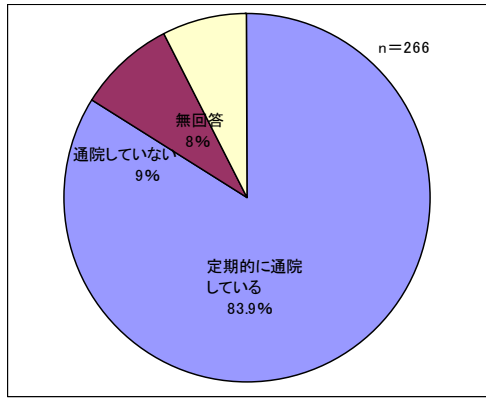


図1 定期的通院の有無

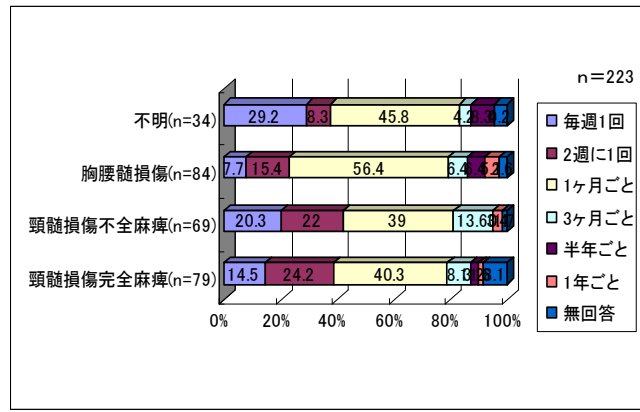


図2-① 損傷別通院頻度

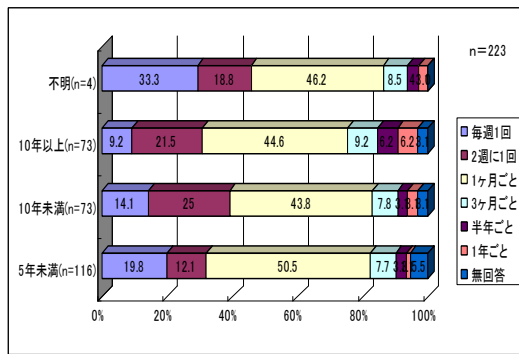


図2-② 経過年数別通院頻度

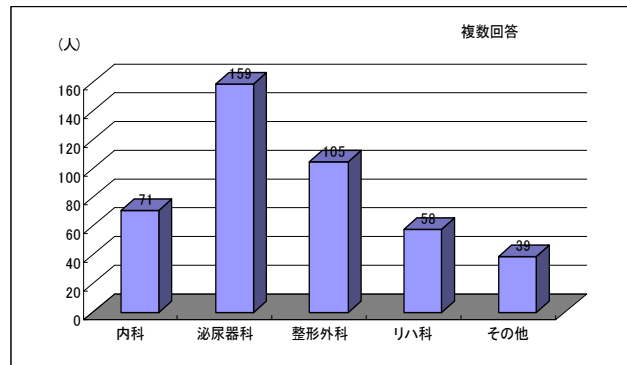


図3 受診している診療科

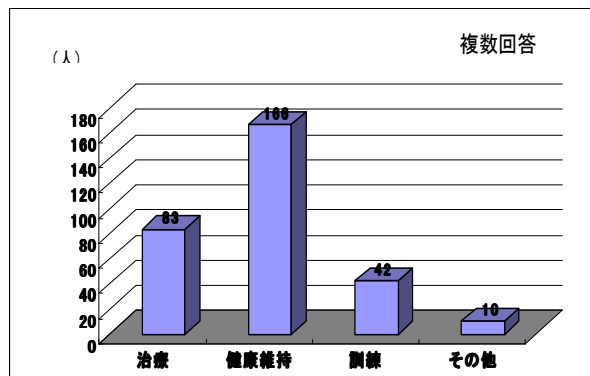


図4 通院目的

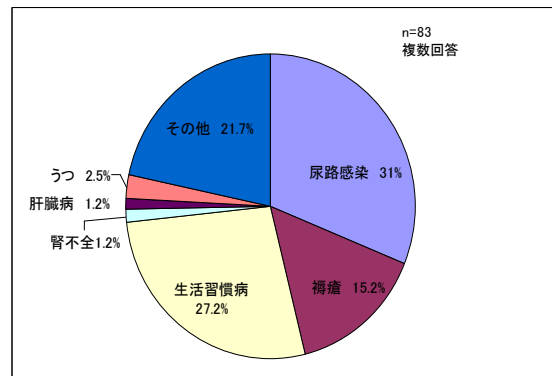


図5 通院で治療している病気